

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-115304

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)7月25日

A 43 B 13/14
3/02
13/10
23/02

Z-6617-4F
6617-4F
6617-4F
A-6617-4F

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 透湿防水靴

⑯ 実 願 昭62-5480

⑰ 出 願 昭62(1987)1月20日

⑱ 考 案 者 小 崎 敏 章 岡山県和気郡吉永町南方123番地 ジャパンゴアテックス
株式会社岡山工場内

⑲ 考 案 者 枝 光 隆 岡山県和気郡吉永町南方123番地 ジャパンゴアテックス
株式会社岡山工場内

⑳ 考 案 者 今 井 隆 岡山県和気郡吉永町南方123番地 ジャパンゴアテックス
株式会社岡山工場内

㉑ 出 願 人 ジャパンゴアテックス 東京都世田谷区赤堤1丁目42番5号
株式会社

㉒ 代 理 人 弁理士 白川 一一

明 細 書

1. 考案の名称 透湿防水靴

2. 実用新案登録請求の範囲

防水透湿布で形成された靴甲部体と通気孔を配設した靴底部体およびこれら靴甲部体と靴底部体との間に介装され且つこれら両部体に少くとも縁部において共に接着された金網その他の保護多孔組織材層から成ることを特徴とする透湿防水靴。

3. 考案の詳細な説明

「考案の目的」

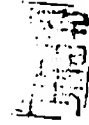
本考案は透湿防水靴の考案に係り、足裏面においても効率的な透湿作用を図ることのできる新規な透湿防水靴を提供しようとするものである。

（産業上の利用分野）

防水性であって、しかも透湿性を有する靴。

（従来技術）

在来一般の靴は着用者に蒸れ感を与えることは周知の如くである。そこで斯うした在来一般の靴における蒸れ感を解消すべく透湿防水布などを甲被材に使用することについては従来から種々に提



案されている。例えば透湿防水布を甲被材として使用し、或いは透湿防水布で足部を覆う袋状体を形成し、これを靴の内面に装着するものである。

（考案が解決しようとする問題点）

然し上記したような従来のものにおいては、成程甲被面においてはそれなりの透湿性が得られるとしても、斯うした靴が着用される場合において足部の発汗量の60%以上を占めるといわれる靴底面においては合成樹脂質やゴム質などによる閉塞構造部体であり、このため折角の甲被面における透湿効果、それと伴う快適感も大幅に阻害される。即ち成程防水透湿性靴を称されてもその具体的な透湿効果は少くとも枢要な足裏面においては60%以上も阻害され、着用者に対し好ましい快適感を得しめない。

「考案の構成」

（問題点を解決するための手段）

防水透湿布で形成された靴甲部体と通気孔を配設した靴底部体およびこれら靴甲部体と靴底部体との間に介装され且つこれら両部体に少くとも縁

部において共に接着された金網その他の保護多孔組織材層から成ることを特徴とする透湿防水靴。

(作用)

着用時において密着した接合状態が形成され、又体重の作用条件下で接合してそれなりの摩擦接合をなし発汗の多い靴底面において通気孔より通気透湿する。歩行時における運動で靴内には高圧化低圧化現象が繰返され靴底面での前記通気を増加する。靴底外面にはすべり止め目的により凹凸が形成されているが前記通気孔がその凹部に開孔することにより前記した通気透湿を有効化する。

金網その他の保護多孔組織材層は靴底面における前記通気孔より侵入した異物により防水透湿布および着用者の足裏面が損傷されることを防止し、従って通気孔はそれなりに大径のものでもよい。

何れにしても靴底面から前述のような通気透湿が行われることによって蒸れることがなく、快適な着用歩行が得られる。

(実施例)

上記したような本考案によるものの具体的な実

施態様を添附図面に示すものについて説明すると、多孔質ポリテトラフルオロエチレンフィルムのような防水透湿性を有する布帛を用いて靴甲部体 1 を、その底面も含めて形成し、このような靴甲部体 1 の底面に微細な組織を有する金網のような保護多孔組織材層 2 を添着し、該保護多孔組織材層 2 に対して靴底部体 3 が取付けられる。保護多孔組織材としてはステンレスなどの不食性ないし耐食性金属の金網あるいはポリプロピレン、ポリエチレンなどの金成樹脂製メッシュ状シートまたは連続多孔質合成樹脂フォーム若しくは天然または合成繊維質の編織材などが用いられる。この靴底部体 3 の底面には迂り止め目的からして側縁まで連結した凹凸 4 が形成され、該凹凸 4 の谷部、即ち靴底部体 3 の底面から見た谷部に該部体 3 の上面に開口した通気孔 5 が配設されている。

靴甲部体 1、保護多孔組織材層 2 および靴底部体 3 は接着剤や縫着その他の連結手段で連結されるが、特に接着剤などによる接着は前記通気孔 5 の通気透湿作用を妨げないように靴底部体の縁部

などでの接着とされる。

「考案の効果」

以上説明したような本考案によるときは装着歩行時において体重支持条件下で接合し、従って発汗の多い足裏面に対し有効な通気透湿を図ることが可能であり、即ち発汗の60%以上を占めるとされる足裏面からの排湿を適切に図って蒸れ感を与えることのない快適な靴着用を得しめるものであるから実用上その効果の大きい考案である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の技術的内容を示すものであって、本考案による靴の各構成部体を分解し適宜に部分切欠して示した斜面図である。

然してこの図面において、1は靴甲部体、2は金網のような保護多孔組織材層、3は靴底部体、4は靴底面における凹凸、5は通気孔を示すものである。

